

国語科学習指導案

日 時 令和5年11月27日(月)
第5校時 13:35~14:25
学校名 墨田区立文花中学校
対 象 第2学年2組 33名
会 場 3階2年2組教室
授業者 教諭 大野 絢加

1 単元名

単元名 自分にとっての価値を見極め、伝え合う。

教材名 「君は『最後の晚餐』を知っているか」 / 「『最後の晚餐』の新しさ」

2 単元の目標

(1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

[知識及び技能] (2) ア

(2) 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。

[思考力、判断力、表現力等] Cエ

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]

3 本単元における言語活動

ア 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。

4 単元の評価基準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1. 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2) ア	1. 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。Cエ	1. 筆者の主張を理解するために、粘り強く文章の構成や論理の展開、表現の効果などについて考え、学習課題に沿って、自分の考えをまとめようとしている。

5 指導観

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領第2学年「C読むこと」「エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること」の指導事項を中心とした単元である。

本単元では「文章の構成や表現にはどのような効果があるのか」という学習課題を設定する。観点を明確にして、文章を比較することで、筆者がなぜその構成や表現方法を選んだのかを理解できるとともに、観点について考えたり、友人との意見交流を行ったりすることで、生徒自身の思考や表現を深めることにつながると考え、本単元を設定した。

生徒自身が課題について、意欲的に思考できるよう、学習の流れを生徒と共有し、最終的なゴールをイメージさせる。また、ICTを思考を深めるためのツールの一つとして活用することで、学習課題について、生徒一人一人が多面的、多角的、重層的に思考し、個別最適な学習を行うことが期待できる。

(2) 生徒観

1 学年時には、「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」や「『不便』の価値を見つめ直す」の学習を通して、説明文の構成や図表の効果を学習した。2 学年では、文章構成や論の展開に着目し、筆者の主張を捉えることを学習している。今回学習を行う評論の題材である「最後の晚餐」について、美術科で作者や一点透視図法など、基礎的なことを学習しており、絵の鑑賞も行っている。

国語の学習に関して、98%の生徒が「国語の学習は、大人になっても役立つ」と思っているが、89%の生徒が「説明的文章よりも物語文のほうが楽しい」と感じている。その理由として、「説明的文章の堅苦しさ」や「説明的文章の淡々とした内容が苦手」と答える生徒が見られた。また、授業中に自分で考えることを52%の生徒が重視しているが、41%の生徒がまず相談したいと考えている。その理由として「自分で考えるべきだ」と考えている一方で、「自分で考えることが苦手」、「相談すると安心する」と思う生徒が多い。

話し合い活動では、63%の生徒が意見を発言するよりも「意見を聞くことのほうが多い」と答えており、自分よりも国語が得意な生徒が発言をした場合、自分の意見への「自信のなさ」や「不安」、「間違えることへの嫌悪」などから、50%の生徒が得意な生徒の意見を重視する傾向がある。

今回の単元の学習を通して、話し合い活動を多く取り入れることで、説明的文章への抵抗感を減らし、物語文で感じているような「楽しさ」を実感させたい。また、相手の意見を受け入れるだけでなく、自分なりの意見を伝え、検討することで、より深い学習につながることに気づかせたい。

(3) 教材観

本単元では、筆者の絵画の見方について、二つの文章を比較しながら自分の考えをもつこと、その考えを分かりやすく他者に伝えることを目標としている。本単元は、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晚餐」について書かれた評論と解説の二つの教材で構成されている。

評論の筆者は、「最後の晚餐」を抽象的に「かっこいい」という言葉で評価しており、筆者の個性や価値観を感じさせる文章構成になっている。一方で、解説の筆者は、客観的な事実をわかりやすく説明しており、目的や筆者の意図によって構成や表現が変わることを比較しながら学習できる教材である。

「自分の考えや意見を、効果的に伝えるためには、構成や表現の工夫が必要であること」を学ぶことで、自分の意見をより効果的に伝えたり、自分が企画した内容をより分かりやすく説明したりできるなど、これからの社会を生き抜いていくうえで必要な力を身につけることにつながると思う。

本単元の最後に、「どのような効果を狙って、構成や表現方法を用いたのか説明する」ことを行うことによって、本単元の目標である「観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること」を達成できると考え、以下の単元計画を設定した。

6 単元の指導計画と評価計画（全5時間）

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)
第1時	単元の学習活動に見通しをもち、これからの学習に必要な言葉について理解することができる。	単元の学習計画を知り、学習の見通しを立てる。 ●学習で用いる言葉を確認し、内容を理解する。	ワークーア（1）
第2～3時 (本時)	筆者の主張を読み解き、まとめることができる。	●文章の内容をつかみ、内容や筆者の主張を理解する。 ●筆者の主張を簡潔にまとめ、「かっこいい」理由を100字程度で要約する。 ●「『最後の晩餐』の新しさ」を通読する。	
	「君は『最後の晩餐』を知っているか」／「『最後の晩餐』の新しさ」を読み比べ、観点ごとに比較することができる。	●それぞれを読み比べて、班でそれぞれ観点を出す。 ●ワールドカフェ的交流活動で考えを共有し、深める。 ●どちらの説明文の書き方が好きか個人で考え、理由をロイロノートで提出する。	ワークシートーイ（1） 班活動ーイ（1） ーウ（1）
第4～5時	構成や表現の効果について考えることができる。	●前時のロイロノートを振り返り、それぞれの構成や表現の効果を考える。 例：全体の「長さ」が違っていた→なぜ違うのかを考え、構成の効果を考えることにつなげる。	ワークシートーア（1） ーイ（1）
	自分の考えを効果的に伝えるために、構成や表現を工夫することができる。	●自分が「好きなこと」を伝えるためには、どのように表現するか考える。 ●どのような効果を狙って、その構成や表現方法を用いたのか説明する。 ●全体をまとめ、ロイロノートで提出する。	ロイロノートーイ（1） ーウ（1）

7 本時（全5時間中の3時間目）

（1）本時の目標

- ・二つの教材を読み比べ、観点ごとに比較することができる。

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ●前時までの振り返りを行い、それぞれどのような内容だったのか振り返る。 ●単元のゴールを確認し、本時の見通しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●検討時間が取れるよう、手早く確認させる。 	
展開 1 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ●二つの説明文をそれぞれ比較しながら、どのような違いがあるかを考え、「観点」を挙げる。 ●それぞれの班で出た「観点」をワールドカフェで共有し、考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●正誤を気にして出さないのではなく、とにかくたくさん出せるよう声かけを行う。 ●ワールドカフェを行うときには、苦手な生徒への配慮として、三人で動けるようにする。 	ワークシートーイ（1） 班活動ーイ（1） ーウ（1）
展開 2 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ●「君は『最後の晚餐』を知っているか」（布施派）／「『最後の晚餐』の新しさ」（藤原派）どちらの書き方が好きか考える。 ●布施派なら赤、藤原派なら青のテキストに理由を書いてロイロノートで提出し、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「書き方が好きか」に答えにくい場合は、「中学生に、この作品に興味をもってもらうためにはどちらの書き方が効果的だと考えるか」に答える。可能であれば観点到に着目させながら、理由を考えさせる。 ●他の人の考えを読んで、考えが変わった場合は、テキストの色を変えた上で、家で再提出してもよいことを伝える ●ロイロノートで共有することで、次時につなげる。 	ロイロノートーイ（1） ーウ（1）
終末 5分	<ul style="list-style-type: none"> ●次時の見通しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ●単元の流れを確認する。 	

8 指導の工夫

① 学習形態の工夫

個人の考えを深めるために、個人や班活動、ロイロノートなどの協働的な学習活動を効果的に用いる。相談をしながらワークシートに記入する際には、自分一人で考えたことと友人との関わりの中で考えたことを区別するために、ペンを変えて記述させる。また、ICTを活用し、書くことに課題がある生徒でも思考に集中できる学習環境を整える。

② 学習教材の工夫

- ロイロノートでの提出など、ICTを必要に応じて活用し、生徒だけではなく、教員も共有や評価をしやすくする。
- 似たような内容の2つの教材を用いることで、内容の理解だけでなく、場面に応じた文章の書き方について、筆者の工夫やそこから得られる効果も含めて考えられるようにする。

③ 学習方法の工夫

ICTと手書きを併用し、生徒が自分に合う記述方法を考え、選択しながら学習することで、生徒それぞれに学習課題に取り組みやすくする。また、思考の深まりや広がりを促すために、班活動やワールドカフェ的交流活動などを取り入れ、協働的な学習を行う。